

第30回（1998年度）サントリー音楽賞は
林 光氏に決定

財団法人 サントリー音楽財団（理事長 佐治敬三）は、わが国の洋楽の発展にもっとも顕著な業績をあげた個人または団体に贈る「サントリー音楽賞」の第30回（1998年度）受賞者を、林 光氏に決定しました。

●選考経過

1. 1999年1月15日（祝）午前10時より東京・丸の内の東京會館において、選考委員10名の出席により第一次選考を行い、「候補者」を選定した。
2. 引き続き3月10日（水）午前10時より、東京・紀尾井町のザ・フォーラムにおいて選考委員10名の出席により最終選考会を開催、慎重な審議の結果、第30回（1998年度）サントリー音楽賞受賞者に林 光氏が選定された。そして同日午後開催の理事会において正式に決定された。賞金は700万円。

※選考理由は別紙の通り。

●選考委員は下記の10氏。

磯山 雅・岩井宏之・小石忠男・白石美雪・武田明倫
丹羽正明・藤田由之・船山 隆・松本勝男・三宅幸夫

（敬省略・50音順）

林 光

<贈賞理由>

林光氏は一貫して日本の新しいオペラ運動を目指す<オペラシアターこんにやく座>の「座付き作曲家」として、これまでも《森は生きている》、《ゼロ弾きのゴージュ》、《変身（セールスマンKの憂鬱）》など優れた作品を世に問うてきた。1998年2月にはオペラシアターこんにやく座による新国立劇場開場記念賛助公演として新作《吾輩は猫である》（原作＝夏目漱石、台本・作曲＝林光、演出＝加藤直 他）を上演（10公演）、その原作に対する卓越した解釈にもとづく台本と作曲（もとより優れた演出・演奏・演技の成果を含む）によって多大の反響を呼び、また感銘を与えた。

漱石の原作は周知のとおりこれといった物語性を持たないエピソードの連続であり、書かれた当時の「時代」を意識的に取り込むこともない。林氏の台本はこれに第1場「橋」〔行き交う人びと、1904年、日露開戦後。子どもたち、出征兵士を送る人びと、与謝野晶子、大町桂月、幸徳秋水……〕と、第2場「廊下あるいは通路」〔編笠をかぶった男女が通りすぎていく。与謝野鉄幹『誠之助の死』が歌われる。（1911年1月24日幸徳秋水ら12人死刑執行）〕という「時代」の枠を意識的に与え、その中で時世にかかわらず呑気に暮らす人びとの時代を越えた普遍的な姿を、A、B、Cの3匹に振り分けた「猫」の眼を通してリアリティに描き出す（「橋」で始まり「廊下あるいは通路」で終わるのは象徴的である）。楽器はヴァイオリンとピアノを用いるだけの音楽でも抽象を避け、日常性とわれわれ日本人が「音楽」あるいは「音」に付着させてきた「意味」を尊重した作曲は、これも見事に林氏の意図をアピールするものであった。

この《吾輩は猫である》の成果はこれまでの<オペラシアターこんにやく座>の活動の成果が集約されたものと考えべきだが、今回は「実践する批評的作曲家」としての林氏のこれまでの活動の集約として評価したい。

<略歴>

- 1931年 東京生まれ。東京芸術大学音楽学部作曲科中退。
- 1953年 外山雄三、間宮芳生と<山羊の会>を結成。
「交響曲ト調」により芸術祭賞受賞。
- 1956年 「オーケストラのための変奏曲」により尾高賞受賞。
- 1958年 NHK委嘱曲「不死馬」でイタリア放送協会コンクール グラン・プリ受賞。
衝撃的な合唱曲「水ヲ下サイ」（原民喜・詩）を初演。同曲は1971年2章
を加え「原爆小景」として完結。
- 1960年 映画音楽「荷車の歌」他4作で毎日映画コンクール音楽賞受賞。
武満徹、芥川也寸志らで<作曲家集団>を結成。
- 1972年 合唱曲「火の夜」で芸術祭賞を受賞。
一柳慧、武満徹、湯浅譲二らと<トランソニック>を結成。
- 1975年 オペラ小劇場こんにゃく座の音楽監督に就任。
- 1982年 合唱曲「鳥のうた」で芸術祭賞を受賞。
- 1983年 日中合作映画「未完の対局」の音楽で毎日映画コンクール音楽賞受賞。
- 1989年 こんにゃく座のためのオペラ「十二夜」を萩京子と共同作曲。ジロー・
オペラ賞特別賞を受賞。同座のオペラ「セロ弾きのゴーシュ」で芸術祭賞
受賞。同2曲のオペラに対して音楽之友社賞が贈られる。
- 1990年 サントリー音楽財団コンサート「作曲家の個展 '90」で委嘱作品「八月の
正午に太陽は…」を世界初演。
- 1995年 「ヴィオラ協奏曲<悲歌>」で二度目の尾高賞受賞。
- 1997年 オペラシアターこんにゃく座芸術監督に就任。
- 1998年 オペラ「吾輩は猫である」、「夢の中の設計図」（ソプラノと5奏者のため
の — 谷川俊太郎詞）、合唱劇「狼森^{おいもり}と 笹森^{ざるもり}と 盗森^{ぬすつともり}」、「花と鳥と木々の
歌」（混声合唱とピアノのための）、「コメディア・チョッコラート」（混声
合唱とピアノのための）を発表。

俳優座、自由劇場、東京演劇アンサンブル、黒テントなどと共働した劇音楽、新藤兼人、大島渚らと共働した映画音楽、また宮澤賢治からブレヒトまで多彩な詩人をテキストとする一連の<ソング>など、活動は幅広い。

以 上